

令和 5 年 6 月  
農林水産省

## 持続可能性に配慮したパーム油の調達コードについて

### 1. 基本的考え方

- 調達基準の検討に当たっては、認証の水準のみならず、様々な要素を総合的に勘案する必要。

### 2. 持続可能な開発目標との関係

- 持続可能な開発目標（SDGs）は、気候変動に加え、貧困、健康・福祉など 17 の目標からなり、日本の重要な友好国であるインドネシア・マレーシアとの関係でも、小規模農業者も含めた地域全体の底上げと、バランスの取れた持続的成長を促す観点が重要。

### 3. 我が国における官民の取組

- 農林水産省では、令和 3 年 5 月に決定したみどりの食料システム戦略に基づき、食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指しており、関係業界と連携し、認証油の調達や小規模農業者の底上げ、優良事例の横展開等、持続性のある調達を引き続き促していく予定。

### 4. 東京 2020 大会での調達コードとの関係

- 東京 2020 大会では、こうした趣旨も踏まえ、RSP0 と並ぶ形で ISPO、MSP0 を国際的行事の調達基準として初めて位置付けたもの。両国との関係でも重要なレガシー。
- 東京 2020 では、これら認証基準はあくまで推奨扱いだったが、EXP02025 の調達コード案では、揚げ油、石鹼・洗剤製品は、義務付け扱いとなっており、持続性への配慮の観点は更に前進。

### 5. その他

- 食料資源の安定的な輸入の確保、農林水産物・食品の輸出拡大等への影響・波及や、油脂原料・食用油に関する欧米等との産業構造の違い、現下の食料品等の価格高騰にも留意が必要。

以上